

山梨県甲府市、山本家は警察官の父と専業主婦の母のもと長男和男、そして双子の美保・美砂の5人家族で幸せに暮らしていました。

そんな中、大学2年の和男氏をバイク事故にて亡くし、家族が悲しみにくれているその最中美保の失踪が occurred。美保さんは1984年6月（当時20歳）に「図書館に行く」と家族に言い残したまま行方不明になりました。行方がわからなくなった4日後、美保さんのセカンドバックが新潟県柏崎の海岸において発見されました。

当時、日本には「拉致」という考えはありませんでした。家族は心当たりがないまま18年間、美保さんの帰りを待ちました。2002年3月、有本恵子さんの北朝鮮拉致の報道があり、又、蓮池さんご夫婦の拉致の報道に何回も「柏崎」という地名が出るたびに美保さんも北朝鮮に拉致されたのではないかと家族は心の中で皆がそう疑い始めたのです。「北朝鮮による拉致が明るみになった今、声をあげなければ美保に一生会うことはできない」妹の美砂さんはそう思い、新聞社に手紙を出しました。こうして、家族は拉致問題に取り組む覚悟を決めたのでした。

同年9月17日小泉首相訪朝。そして山梨県警から家族に事情を聞きたいと連絡が入りました。

その後、失踪の状況その他さまざまな見地から美保さんは拉致濃厚の特定失踪者として特定失踪者問題調査会にリストアップされました。

そして問題が表面化し、美保さんを取りかえすために支援組織が立ち上がり勢力的に署名活動が繰り広げられ、平成15年1月に8万4千筆、12月に12万5千筆の署名を日本政府や警察庁に対して提出しました。様々な活動の中、2003年5月脳腫瘍のため、お父様は他界されました。まさに無念の死といえます。

このように山梨県内ではとても大きな動きとなった平成16年3月4日双子の妹の美砂さんに「山形で発見された身元不明遺体と美砂さんのDNAが一致しました。」と山梨県警・警備1課課長補佐Y氏より電話が入りました。

「美保は死んでいたのか・・・」と一度はその話を信じたものの、家族に黙って行われたDNA鑑定についてその唐突さを疑問に感じ、その後に示された身元不明遺体の資料は美保さんと同一人物とは到底思えないものだったため、たくさんの矛盾について明確に説明を求めてきました。

残念なことに未だに納得のいく説明を得られないどころか、同一人物という結果を否定するようなものばかりが浮上し、矛盾点は更に増えていくばかりです。